

「はむらの授業指針」教師の視点④

三つの柱に即した指導の手立てがある

表題の「三つの柱」は、教科等の枠組を超えて、あらゆる資質・能力に共通する要素です。したがって、新しい学習指導要領の各教科の指導内容は、この「三つの柱」で分類されています。

次に挙げる指導の手立てを工夫することは、より着実に力の付く授業につながります。



① 知識及び技能

- 既習事項との関連付けや活用
例えば、「主体的に学ぶ」という概念理解のために、「自主的に学ぶ」との違いに着目させます。

② 思考力・判断力・表現力等

- (1) 学校教育法第30条第2項において、「思考力、判断力、表現力等」とは、「知識及び技能」を活用して課題を解決するために必要な力と規定されています。よって、次に挙げる三つの学習過程を丁寧に取り扱うことが重要です。
 - 問題を見だし、方法を選んで解決する。
 - 情報を収集・整理・活用して考えをもち、互いに交流する。
 - 自分の思いや考えを基に構想し、意味や価値を創造する。
- (2) 三つの内言により、自らの学習の質を高めさせます。
 - 「他に考え方はないか」(多面的・多角的な視点)
 - 「分かりやすいか」(論理的思考・表現)
 - 「本当にこれでよいか」(メタ認知)

③ 主体的に学習に取り組む態度

- 子どもが自ら学習を調整しながら粘り強く取り組む場面を、教師があらかじめ設定する。

足るを知る

京セラ名誉会長、KDDI 最高顧問、日本航空名誉顧問 稲盛和夫

膨れ上がる欲望を満たそうとしている限り、幸福感は得られません。反省ある日々を送ることで、際限のない欲望を抑制し、今あることに「感謝」し、「誠実」に努力を重ねていく——そのような生き方の中でこそ、幸せを感じられるに違いない。

出典：「稲森和夫一日一言 運命を高める言葉」(稲盛和夫著 致知出版社)

※ 「足るを知るは富む」は、孔子が「道德教」で記した言葉、「富む」とは、心が豊かになることです。